

## 5 第15代将軍 徳川慶喜・外国公使謁見の地(本丸御殿)

### ▶ ①第15代将軍 徳川慶喜・フランス公使 レオン・ロッシュとの会見

兵庫開港問題について幕府の意図を確認するため、また、幕府軍の編成とフランス士官の雇用、横須賀海軍工廠の監督にについて了承を得るため、フランス公使 レオン・ロッシュが来坂します。それにあわせて、就任間もない将軍徳川慶喜も京都から来坂します。

慶応3年2月6日・7日(1867年3月11日・12日)大坂城内にて両者が会見します。

儀礼抜きの会見となり、老中 板倉勝静が同席しています。

慶喜はロッシュに「統治の全権は天皇ではなく自分にある」ことを主張し、また、板倉は「将軍が、長州との戦争を継続する事を全く放棄し、この撤退は一時的なものではない。将軍家と薩摩藩は良好な関係である。」と告げています。

ロッシュは慶喜にフランスをモデルとした内閣制など国政改革を提案しました。

慶応3年2月20日(1867年3月26日)、慶喜はロッシュと3回目の会見を行います。

このとき慶喜は、ロッシュからローズ提督を紹介されています。



第15代将軍 徳川慶喜



フランス公使 レオン・ロッシュ

### ②第15代将軍 徳川慶喜・外国公使との謁見

慶応3年(1867)3月、将軍 徳川慶喜と外国公使との謁見が大坂城で行われました。

3月25日にイギリス公使ハリー・パークスとの内謁見(非公式)。

26日にオランダ総領事ポルスブルックとの内謁見(非公式)。

27日にフランス公使レオン・ロッシュとの内謁見(非公式)。

28日にイギリス、フランス、オランダの3カ国代表との公式の会見。

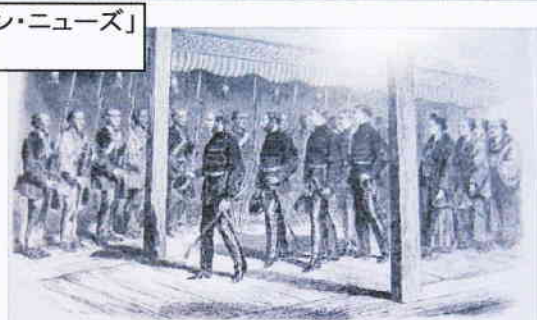
29日大坂に遅れて到着したアメリカ公使ファルケンバーグとの内謁見(非公式)。

4月1日にアメリカ公使との公式の会見。慶喜の希望により、29日イギリス第九連隊の分遣隊の調練を大坂城で見学します。その際、特別に許可されウィリアム・サットンが慶喜の写真を撮影しています。この写真は、ワーグマンの描く数枚の(大坂城の)絵とともに本国に送られ、1867年8月10日号の「ザ・イラストレイテッド・ロンドン・ニュース」に紹介されました。



大坂城内で撮影したとされる  
第15代将軍 徳川慶喜

「ザ・イラストレイテッド・ロンドン・ニュース」  
に紹介された絵



### ③イギリス側から見た徳川慶喜・英国公使との内謁見(非公式)の様

<パークスより英国外相スタンレーへの報告(1867年5月4日付) >  
[慶応3年3月25日(1867年4月29日)]

「城の玄関で、われわれ(パークス、ロコック、ミットフォード、サトウ、アプリン)は多くの役人や外国奉行などの出迎えをうけ、つづいて大きな控えの間に案内された。

われわれが通る廊下や部屋などには、ヨーロッパ風の装備を身につけた護衛兵がところ狭しとばかり立ちならんでいた。少し待たされてから、謁見の間(御白書院)に案内され、そこで老中板倉伊賀守(勝静)と三人の若年寄に迎えられた。テーブルの一方の側にはわれわれの席、他方の側には幕府側の席が用意され、テーブルの上手には装飾をこしらえた小さな椅子が将軍用に置かれてあった。(途中省略)低く押し殺したような声で将軍

(徳川慶喜)の入室が告げられた。老中と三人の若年寄をのぞき、部屋にいたすべての幕府側の役人はただちにひれ伏した。将軍が部屋に入ってきた。平服であったが、色彩ゆたかな衣装を身につけていた。(途中省略)将軍はまず(イギリスの)女王陛下の健康についてたずね、これにたいしてわたし(パークス)も、日本における権威の最高の源泉である天皇の健康について、同様のことばを返し、かくして会話がはじまった。将軍はただちにわたしの挨拶にたいして謝意を表し、わたしはつづいて殿下(His Highness)の健康についてたずねるとき、同様に起立して敬意を表した。(途中省略) ※会話が1時間半経過つづいて、将軍が公使館の騎馬護衛兵を見たいと希望したので、かれら(騎馬護衛兵)は内廷(大広間前広場)に案内され、アプリン大尉の指揮の下に、見事な乗馬を披露した。



イギリス公使 ハリー・パークス



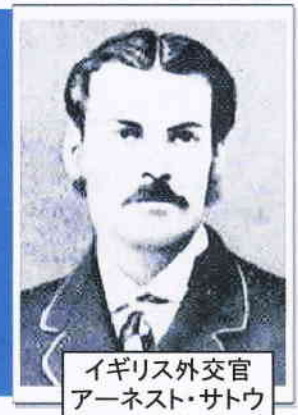
殿下はこれまで西洋の騎兵を見たことがなかったので、たいへん満足した様子であった。(途中省略)  
 ※食事となり「御白書院」につづく「御次の間」に案内される。それはまったくの洋風の食事であった。  
 (途中省略)将軍が立ち上り、女王陛下のために乾杯した。(途中省略)※食事の献立 ○鶏肉スープ  
 ○魚 ○牛のフィレ肉 ○ローストビーフ ○さやいんげん ○トリュフ入りハム ○鶏のささみ ○うずら  
 ○グリンピース ○バター・ソテ ○鶏のパテ ○ベシャメルソース入りパイ ○つぐみのワイン煮  
 ○マッシュルームのパイケース詰め ○アスパラガス ○パンパロワ ○キルシュ酒風味ゼリ ○アーモンド  
 菓子 ○オレンジ ○マスカットぶどう ○すもも ○紙包ボンボン ○ジュリエヌ・ド・フリユイ  
 ○メレンゲ ○アイスクリーム ○洋梨 ○いちじく ○糖衣菓子 ○シェリー酒 ○ボルドーワイン  
 ○赤ワイン ○シャンパン ○デザートワイン

食事後、将軍はわれわれを別室に招じ、そこでコーヒーが出された。食事をまじえてのなごやかな会話は、約一時間つづいた。食事の時間を利用し、将軍はわたしとわたしに同行した公使館員にそれぞれ贈り物をしてくれた。(以下省略) ※パークスへの贈り物・御写真・大坂写真・蒔絵置筆筒・毛裁猿・毛裁兎・人形・鞍置馬の手翫・三十六歌仙のうち伊勢の額・銀させる煙草入筒共



<「一外交官の見た明治維新」/イギリス外交官アーネスト・サトウ>  
 「将軍は、私(アーネスト・サトウ)がこれまで見た日本人の中で最も貴族的な容貌をそなえた一人で、色が白く、前額が秀で、くっきりした鼻つきの立派な紳士であった。(途中省略)

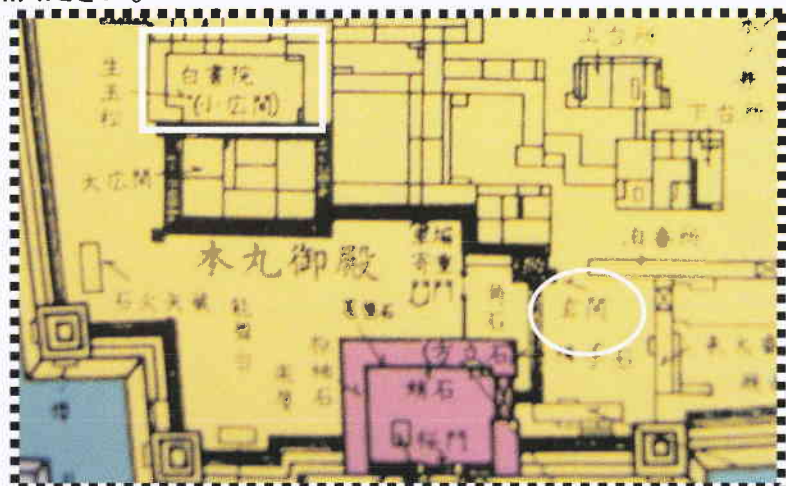
会談が終わってから、一同は洋式の晩餐が用意されている小室へ席を移した。将軍は、食卓の上座についたが、その態度はきわめて懇懇であった。周囲の壁に、三十六歌仙の絵が掛けてあった。ハリ卿(パークス)がそれをほめると、将軍はその中の一枚を卿に贈った。(途中省略)われわれが退出したのは、もう夕暮れ時だった。」



イギリス外交官  
アーネスト・サトウ

④徳川慶喜・外国公使謁見の地(本丸御殿内 白書院跡)

外国公使との謁見が行われた場所は、本丸御殿の中の「白書院」でした。白書院の場所は下記図面をご参照ください。





本丸御殿 白書院跡

⑤慶喜面前でのイギリス軍隊の調練実施地(本丸御殿大広間前の広場)

イギリス公使との謁見の際、徳川慶喜は公使館の騎馬護衛兵を見たいと希望したので、騎馬護衛兵は内廷(大広間前広場)に案内され、アプリン大尉の指揮の下に、見事な乗馬を披露しました。

その場所は、現在大阪城 天守閣前本丸広場 池より南側乾舞台の北側に該当します。



イギリス軍隊の調練実施地跡

6

## 大政奉還・王政復古の号令発令後 徳川慶喜 大坂城に入城(本丸御殿)

- ▶ ①徳川慶喜 慶応3年12月13日大坂城へ入城  
徳川慶喜は大政奉還で政権を朝廷に返上し、王政復古の号令で辞官、納地を命じられます。京都は薩摩・長州を中心とする新政府軍と旧幕府軍は一触即発の事態となります。慶喜は二条城から大坂城へ拠点を移すため、慶応3年12月13日(1868年1月7日)大坂城へ入城します。



幕末期の大坂城大手門(古写真)